

(別添3)

【宜野座村】 校務DX計画

本村における校務DX計画において、GIGAスクール構想で導入された端末の「標準仕様のツール」を活用した校務DXを推進していく。また、今後構築が進むと思われる次世代校務支援システムについては、沖縄県教育委員会と情報を共有し、県域での導入に向け随時連携を図っていく。

第1期ならびに次期GIGAスクール構想で導入された1人1台端末の標準仕様のツールは、クラウド活用を前提として展開している。また、「校務DXチェックリスト」の項目では、現在活用している標準仕様のツールで実践可能な内容となっており、日々の校務改善に標準仕様のツールを利活用しながら新たに必要なコンテンツの導入を検討しながら業務の改善や効率化を通じて、学校の働き方改革やペーパーレス化につなげていく。

1. 【第1期GIGAの総括と課題の解決】

(1) FAX・押印の原則廃止

FAXと押印の原則廃止は、校務の効率化、ペーパーレス化、教職員の働き方改革を達成するための重要な要素となる。原則廃止に向けてメールやクラウドサービスの活用を進めるとともに、各種関係機関等に対しても、慣行の見直しを依頼するなど継続的に働きかけを行っていく。

(2) 校務の連絡のデジタル化

標準仕様のクラウドツールを活用し、学校の職員間や保護者・生徒への連絡、通知（教育計画やアンケート等）のデジタル化を促進し、職員会議や日々の教育諸活動の資料共有には標準のクラウドツールや校務支援システムを用いることでペーパーレス化を促進する。

(3) クラウド環境を活用した校務DXの推進

クラウドサービスを安全な環境で活用できるようゼロトラストの考えに基づいたセキュリティ環境を構築する。また、その観点からゼロトラスト環境を目指す際に教職員が使用する校務系端末と学習系端末を使い分けつつ、更なる利便性の向上をめざす。

(4) 次世代の校務支援システムの導入に向けた検討

現在導入している校務支援システムについては、教職員の業務の効率化を目指して北部地区でプラットフォームを統一する方針に則り校務環境の整備を進めていく。

次世代の校務DXの推進における学校と教育委員会、学校内での教員や事務職員、ICT支援員、学習支援員等の業務を踏まえた役割を改善し、その連携を図る。

現在、教育情報セキュリティポリシーを最新のガイドラインに準じた内容に改定している。その策定された情報セキュリティポリシーに基づき順次、校務に関わるICT環境の改善を図る。

2. 【第2期GIGAに向けて】

(1) コミュニケーションツールの活用

標準クラウドツールのチャット機能を利用し、校内の情報共有の簡素化を図り、クラウド活用による非同期・分散で各自のタイミングで確認・返信、編集等が可能になる。例として、校内での事務連絡等や個別の連絡にチャットを有効活用することで、即時共有ができる。これまで職員室に戻り連絡を確認するといった業務も縮小される。また、チャット上で共有し

た資料やリンクはチャットスペース上に保存され、後日確認・編集等が可能であり、教職員の業務遂行時の合間を縫ってその確認がしやすくなり、業務効率化による改善に繋がる。

(2) クラウドツールの活用

チャット同様、標準仕様のクラウドツールを校務での利活用を促進する。例えば、日々の校務一覧表等を表示し、校務の進捗状況の確認と把握、共同編集機能で、勤務の動態表等の作成、その他、学校評価、学校内でのアンケートフォームの活用、カレンダー機能を活用した行事の共有等についても標準仕様のツールを活用することで、ペーパーレス化を促進し、校内での確認・共有が容易となり、業務削減等に繋がる。また、ホームページ作成ツール等も活用し、今後は、学校のホームページを通じた保護者への連絡、校内研の通知、各種委員会の児童生徒への通知など情報を一元化し、情報共有を簡便にすることが可能となる。

(3) 校務 DX チェックリスト

校務チェックリストの項目は、標準仕様のクラウドツールである程度対応可能となっている。標準クラウドツールを活用する中で管理コンソールのログや利活用データを取得・管理し、それらの情報から活用状況を分析し、ニーズや課題を把握し活用の促進を図るため教育委員会の研修の実施や校内研と連携した研修の充実を図っていく。

(4) 校務・授業・研修（校務と授業と研修が相似形になる利活用を促進）

導入されている標準仕様のクラウドツールを校務への活用をはじめ、研修においてもペーパーレス化などを促進し、そのノウハウを授業に生かすことが求められている。標準仕様のクラウドツールを校務、授業、研修など教育業務のあらゆる場面でも使えるよう環境を整備し実践を重ねていく。

(5) 校務での生成 AI の利活用について

生成 AI を活用できる環境を整備し、様々な校務での生成 AI の利活用を図る。まずは、日常の公文等の文書の素案の作成や文章の添削、要約、学校アンケート等の分析活用等。さらには教職員の授業やその他校務での応用的・汎用的な活用など、先生方が「校務で慣れる」ことから段階的に「授業での活用」までを想定し研修会等を計画していく。

(6) 次世代校務支援システムの導入に向けて

沖縄県教育委員会の校務 DX の推進への取り組みに対し、次世代校務支援システムの導入に向けた連携を図り、校務 DX の推進を図っていく。その中で、次世代の校務 DX 環境構築に向け「ゼロトラストの方向性を持ち、アクセス制御を前提としたネットワークへの移行」が求められている。現在の環境においても、校務と授業のデータの管理と学校の外部や内部でのアクセス・データを管理する中で、村教育情報セキュリティポリシーに基づいた運用と、その体制を推進していく。

また、校務支援並びに学習支援のシステム更新においても、スムーズに次世代のシステムへの移行ができるよう、校務系ネットワークのシステム等の現状分析やセキュリティの高度化、業務フォローの見直し等、望ましい校務のあり方に関する検討を重ねる。